

■ 生成AIの開発力強化に向けたプロジェクト「GENIAC」を開始

経済産業省は2月、生成AIの開発力を強化していくため、基盤モデルの開発に必要な計算資源に関する支援や関係者間の連携を促すプロジェクト「GENIAC (Generative AI Accelerator Challenge : ジーニアック)」を開始すると発表した。

生成AIはインターネット等に匹敵する技術革新とも言われ、労働力不足などの社会課題の解決にも貢献すると期待されている革新的な技術だ。従来のAIでは不可能だったさまざまな創造的な作業を人間に代わって行える可能性があることから、産業活動・国民生活に大きなインパクトを与えると期待されている。その生成AIの鍵を握るのは基盤モデルであり、この有無で国全体の利用可能性や創出するイノベーションが変わる可能性が高い。

経済産業省では日本国内の基盤モデル開発力を底上げし、また企業等の創意工夫を促すため、GENIACを立ち上げ、計算資源の提供、利活用企業やデータホルダーとのマッチング支援、グローバルテック企業との連携支援やコミュニティイベントの開催、開発される基盤モデルの性能評価を実施する。

GENIACの第1期採択事業者として決まったのは、スタートアップ企業の株式会社ABEJA、株式会社Preferred Elements、Sakana AI株式会社、ストックマーク株式会社、Turing株式会社及び情報・システム研究機構、東京大学の7者。7者は世界最高レベルの性能を持つ基盤モデルや、

「マルチモーダル」と呼ばれるテキスト・画像・音声等の異なる情報を統合して処理するAI、ハルシネーション（生成AIが出力するもっともらしい嘘）を大幅に抑制するAI等の開発を目指す。

現在発表されているプロジェクトの主な支援内容は以下の通り。

● 計算資源の提供支援

基盤モデルを開発する上では、計算資源の確保が大きな課題となる。経済産業省が所管する新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が実施する「ポスト5G情報通信システム基盤強化研究開発事業」を活用し、計算資源の確保と利用料補助という形で支援する。

● 関係者間の連携促進・対外発信

開発者同士がネットワークを広め、知見を共有し合うとともに、生成AIの利活用を促進するため、海外有識者を招いたセミナーや、開発者ネットワーキングイベント、開発者・利用者のマッチングイベント等を順次実施する。

なお「GENIACコミュニティ」はSlackでの情報交換や、有識者を招いたセミナーやオンラインイベントなど、生成AIの最新状況等についてディスカッションができる場で、2024年3月からは、採択事業者以外の開発者もコミュニティに参加可能となっている（審査あり）。

開発に必要な計算資源は米国のGoogle社が提供し、利用料の84億円分を政府が補助する。7者は最新鋭のGPU（AI向け半導体）を搭載したGoogleの計算資源を無料で利用でき、これを活用しておよそ6カ月間で社会実装に向けた「国産・生成AI」の開発を目指す。



OKI *Open up your dreams*

社会の大丈夫をつくっていく。

<https://www.oki.com/jp/>